若手医師リレーエッセイ
Spirits
スピリッツ

名寄、ヘリ、90歳、ロボット！？ ココは最北／最前線

名寄市立総合病院、循環器内科医員
旭川医科大学 内科学講座 循環・呼吸・神経病態内科学分野（第一内科）
樋口隼太朗

はじめまして、いつもお世話になっております。名寄市立総合病院、循環器内科医員として勤務しております、樋口隼太朗と申します。研修医時代にたくさんお世話になった先輩たちからバトンをもらい、私の名寄でのとびきり刺激的な医師３年目生活を紹介させていただきます。

当院は旭川を除く道北医療圏を担う、救命救急センターを保有する総合病院です。私は循環器内科医としての第一歩をここで踏み出したいと思い赴任させていただきました。

名寄はとっても空が広くて気持ちのいいまちです。後述するドクターヘリを迎える際は、ヘリポートでまちを見渡すことがあります。仕事に疲れた時は特に、自然に囲まれた景色に心を洗われています。

周知のことではありますが、北海道は札幌／旭川を除くとどこも高齢化・過疎化が進み、すべての地域住民に均一で専門性の高い医療を提供することは大きな課題です。名寄は稚内、遠軽・紋別、北留萌からも患者様がやってくるような地域で、ドクターヘリで搬送される患者様も少なくありません。直接電話相談を受けてドクターヘリで患者様を搬送してもらい、そのままカテーテル検査や治療を行うことは、とても刺激的な経験です。

日常診療では虚血性心疾患のカテーテル治療、不整脈へのアブレーション治療／デバイス治療、心筋症の精査・心筋生検など、Generalに循環器疾患を診療することができます。毎日が勉強、勉強、勉強で大変ではありますが、ひとつひとつが身になっていくのでやりがいに満ちています。自分のキャパシティを超えてしまいそうになり、仕事に追われてスタッフに迷惑をかけてしまうことも多いですが、それでも元気に退院する患者様の姿を励みに仕事をしています。

幅広く専門的な治療の行える病院で、多様な高齢患者様をみているととても痛感することがありました。それは身体年齢よりも健康年齢が大事というとても当たり前のことです。平均寿命前でもコントロールの悪い生活習慣病とそれに伴う全身血管病により実年齢よりも10歳以上も年老いて見え治療の進まない患者様がいる一方で、90代になってももともと体力があり、侵襲的治療を乗り越えて退院し元気に通院される患者様がいます。これまではある程度高齢になると侵襲的治療や救命措置はなかなか敷居の高いもの、というイメージがありました。しかし現実に超高齢な患者様でもカテーテルでの治療を希望され、症状を改善し元気に帰っていくのを見ると、カテーテル治療のすばらしさを実感し、もっともっと上手になりたいという思いが強くなります。

帯広出身で旭川医科大学を卒業。部活はソフトテニスとバンド、ジャズなどをしていました。休日はドライブしたり、おいしいお酒をあさったりしています。北海道の地域医療に、専門科にこだわらず貢献できるようになりたいと思っています。循環器内科という視点から、総合診療、感染症、エコー診療、医学教育、などいろいろなことに手を伸ばしたい……と思いながら（言うは易し以下略）、なんとか目の前のことにしがみついています。

また、名寄で初めてロボットアシストによるカテーテル治療というものを知りました。地域の中核病院にいながら遠方の心筋梗塞患者の治療を行えるという、遠隔医療の希望の星です。この先、大学病院やより小規模な施設で働く今後の人生の中で、地域医療の最先端に触れられたことは重要な経験になっています。

ただ、この頃さびしく思うことがあります。名寄は旭川や札幌とは良くも悪くも距離があり、これまでの仲間や同級生と会って話して食事するといったことがしにくいことです。直接の交流が減っているこの時代では、自分の今いる環境に足りないもの、自分の努力不足な部分に気づきにくくなっているのだと思います。もしこれを読んでいる知り合いの方がいたら、何かの形で近況をやり取りできたらと思います。

まずはスタートラインに立つのでいっぱいいっぱいではありますが、今後も大学病院から診療所まで、さまざまな場所で実力をつけ、これを読んでいるいろいろな医療関係者に成長した姿を見せられるよう精進していくことをここに宣言します。

次のバトンは私の大学時代の戦友であり、今後も同じ医局の同期として頼りにしている林望美先生に託します。最後まで読んでくださってありがとうございました！